

平成29年7月九州北部豪雨における福岡県医師会の対応について

平成29年7月19日
公益社団法人 福岡県医師会

福岡県医師会の活動について

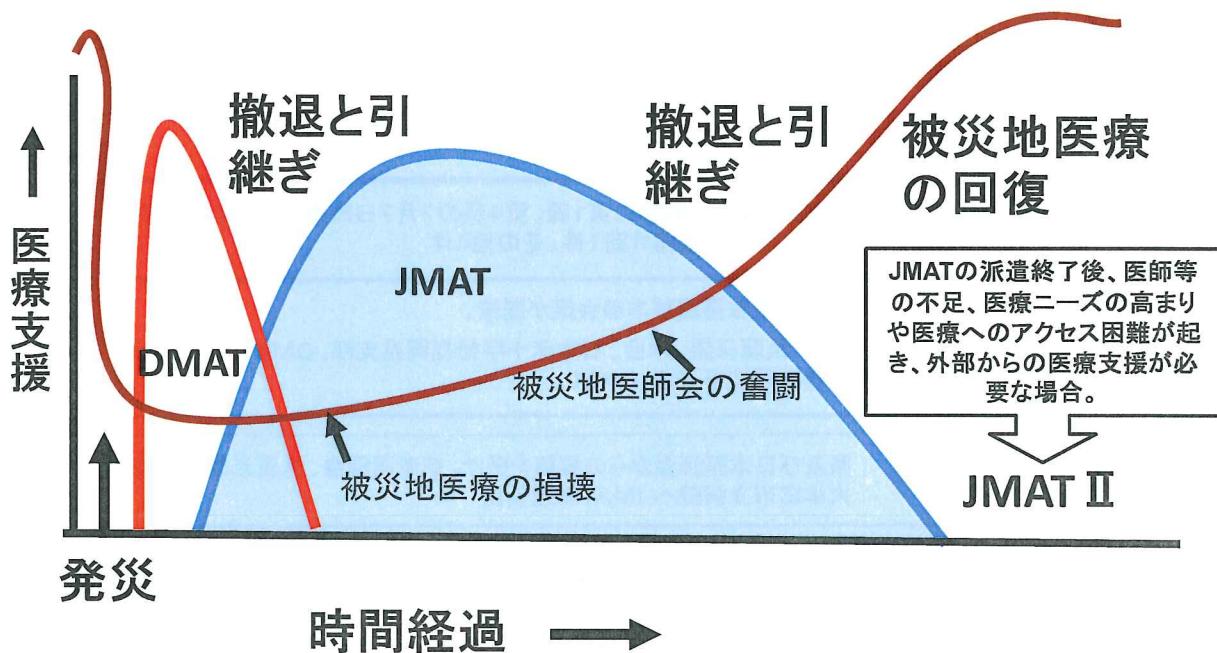
7/5	15時	福岡県災害対策本部、福岡県災害対策両筑地方本部を設置
	21時	福岡県医師会災害対策本部を設置
	23時	各医師会へ被害状況報告依頼
7/6	11時	朝倉医師会より被害の第1報。第4報の7月7日時点では、濁流被害2件、浸水4件、道路寸断1件、その他4件
7/8	15時	県の医療救護調整本部会議が開催。 参加:県関係課、本会、日本赤十字社福岡県支部、DMAT、北筑後保健福祉環境事務所・DPAT
7/11	14時	県及び日本医師会からの要請を受け、筑紫医師会、久留米医師会及び大牟田市立病院へJMAT派遣要請
7/12～17		JMAT福岡として、久留米大学病院、大牟田市立病院、朝倉医師会病院から9チーム(医師11名、看護師17名、薬剤師6名、事務等6名の計40名)を朝倉市(旧甘木市、旧杷木町)の避難所へ派遣

JMATの役割

- ① 避難者に対する医療、健康管理
- ② 避難所等の公衆衛生対策：感染症対策、避難者の健康状態、食生活の把握と改善
- ③ 在宅患者の医療、健康管理
- ④ 派遣先地域の医療ニーズの把握と評価
- ⑤ 医療支援が行き届いていない地域（医療支援空白地域）の把握、及び巡回診療等の実施
- ⑥ 現地の情報の収集・把握、共有
- ⑦ 被災地の医療関係者間の連絡会の設置支援
- ⑧ 患者移送
- ⑨ 再建後の被災地医療機関への引継ぎ

2

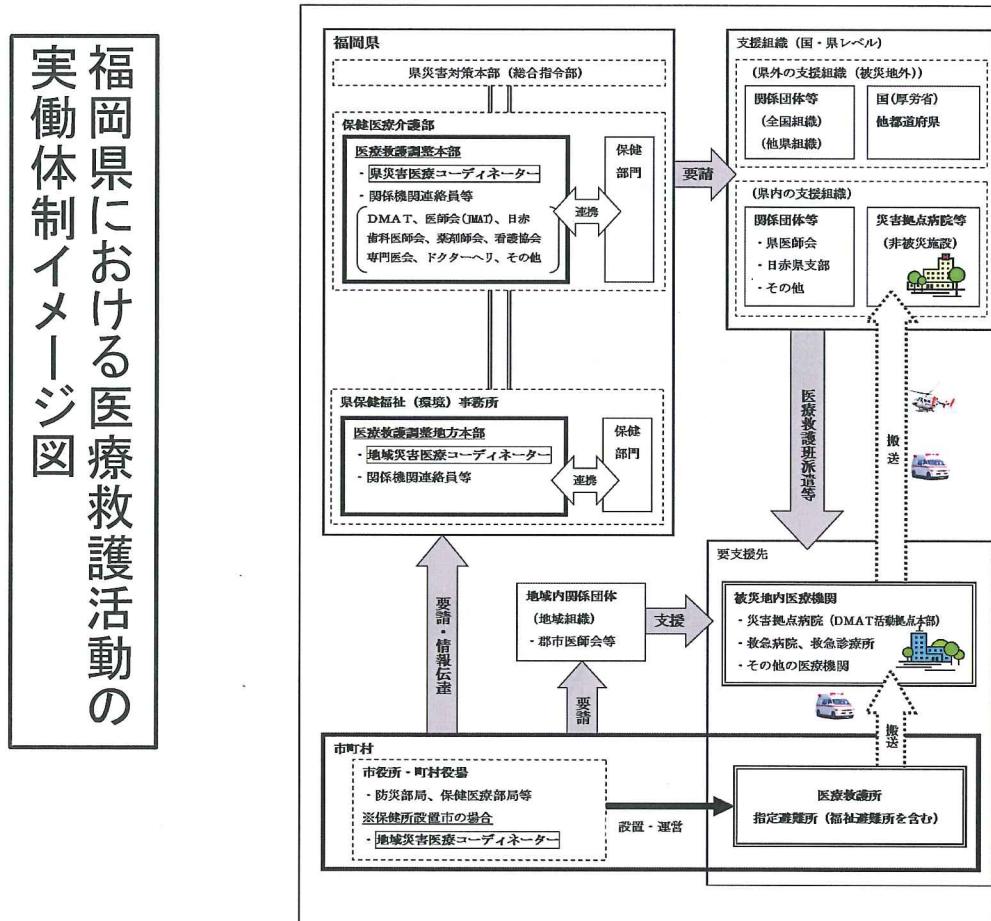
DMATとJMATの役割分担（概念図）



日本医師会「JMATに関する災害医療研修会」（平成24年3月10日）資料
（「DMATとJMATの連携」（小林國男 日本医師会「救急災害医療対策委員会」委員長（当時））

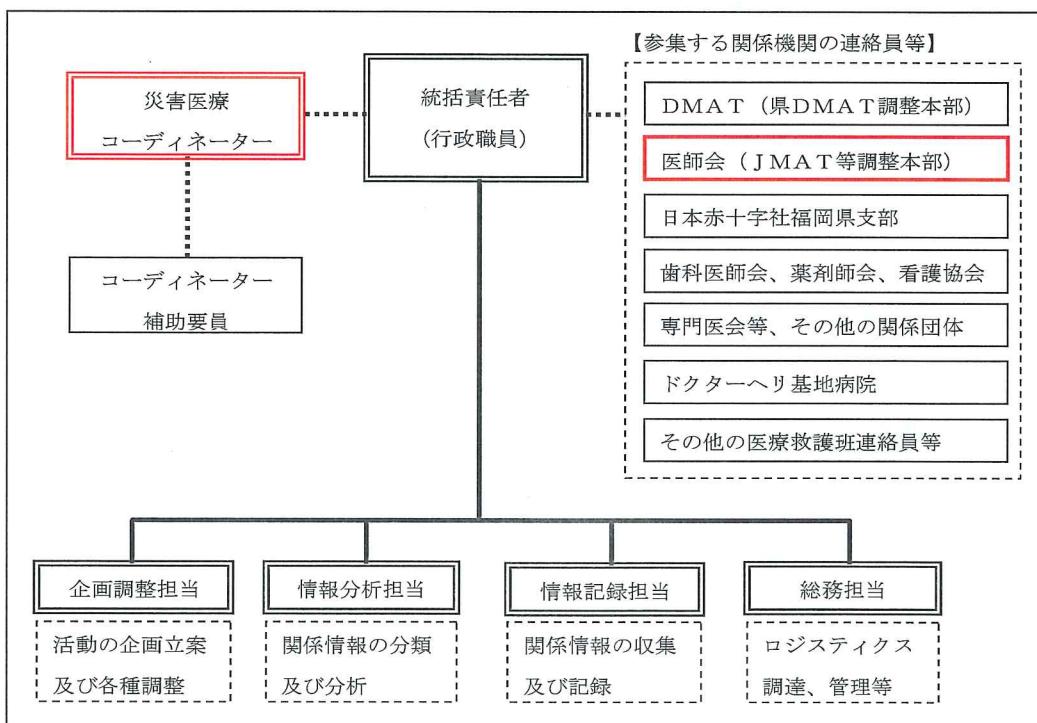
3

福岡県における医療救護活動の実働体制イメージ図



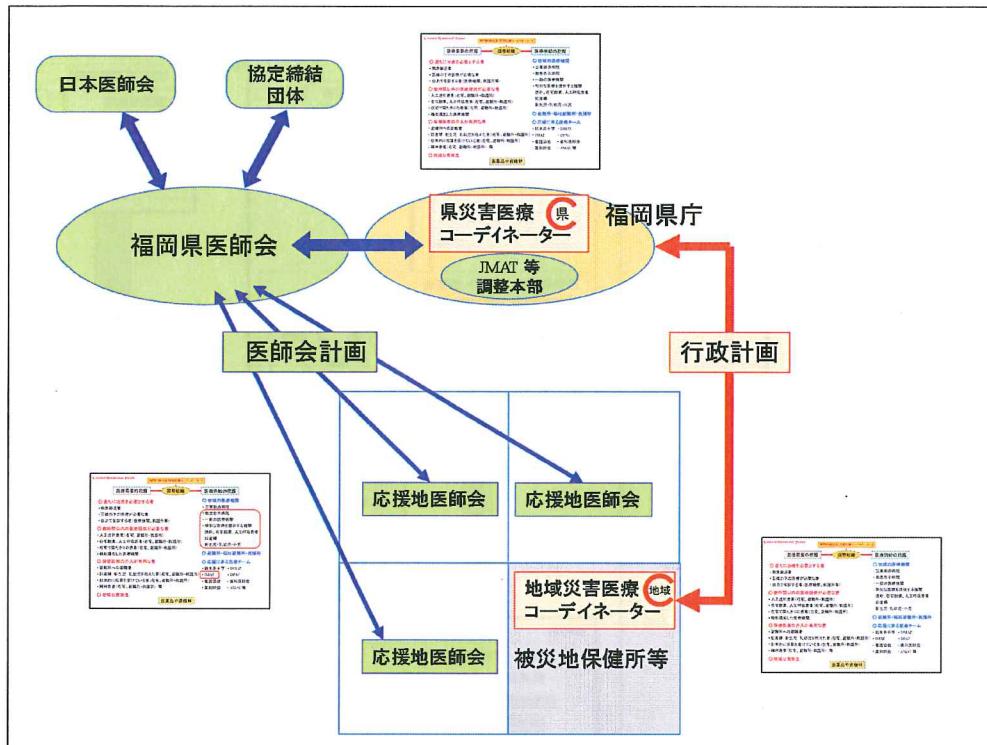
4

県医療救護調整本部の基本的組織構成



5

福岡県における基本的情報収集体制



6

避難所生活で気を付けること

体調が悪い時は、我慢しない

- 体の具合が悪い時は我慢せずに、管理者や担当の方に伝えること
- 特に高齢者は我慢しがちであるので、管理者側も積極的に聞き出すことが重要
- 具合が悪ければ積極的に受診する

生活のリズム

- 生活のリズムが乱れがちになる。決して無理をしては良くないが、例えば、朝のラジオ体操、日中は起きていて、夜は寝る、食事の時間には皆と一緒に食べる、間食を控える(今後避難所にはかえってお菓子・ジュースなどが豊富にあるため)など、規則正しい節制のある生活を心がける。

衛生面の配慮: 手洗い、うがいの励行

- ごみの分別と蓋つきのごみ箱、手洗いをしっかり行うこと、生活空間と土足のエリアをきちんと分けること(土埃などの侵入を防ぐ)、うがいをしっかり行う、歯ブラシの管理を衛生的に行うなど。

十分な水分補給

- 日時が経つにつれ、気温の上昇と湿度の高い状態が続くため、熱射病や脱水には特に注意が必要で、体力の弱い人は涼しい(冷房の効いた)部屋で過ごすことに加え、脱水にならないように十分な水分補給が重要になる。

地域の人とのコミュニケーション・相談

- 精神的なストレスから気持ちが塞ぎがちであるが、近所の人たちと色々話すことで気持ちが安定する。
- 憂みなども一人で考えるのではなく出来るだけ誰かに話し、どうしても気持ちが落ち着かない場合は管理者に相談する。

7